



Kobe University Repository : Kernel

Title	簿記教授法ノ革進
Author(s)	井浦, 仙太郎
Citation	經濟學商業學國民經濟雜誌,25(5):709-722
Issue date	1918-11
Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	publisher
DOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/00052958

Create Date: 2017-08-19



簿記教授法ノ革進

東京高等商業學校教授兼小樽高等商業學校教授

商學士 井浦仙太郎

予曩ニ雜誌會計第二卷第六號及第七號中島精二氏論文借方貸方ノ意義ヲ論ジテ貸借對照表ノ形式ニ及ブト云フヲ讀ムデ其或部分ハ實ニ予ノ言ハント欲スル所ヲ云ヒ此未知ノ人而モ一知己ヲ得タルガ如キノ情寔ニ禁ズル能ハザルモノガアツタ。

一 所謂假定人格說

從來此借方貸方ヲ説明スルノ方法トシテ大體ニタ通リアル。其中デヨリ多ク用キラル、方法——夫ハ著者ヤ教科書等ノ數ノ上カラ下シタ判斷ニヨリ、又ハ實際諸學校ニ於テ教ヘラル、所モ亦多分ソウデアラウト云フ所カラ判斷シテ多數ナリト思ハル、方法ハ獨リ金錢物品ノ貸借許リデナク、所有動産、不動産、果テハ損益諸勘定ニ至ルマデ皆或人格ヲ假定シ來ツテ、此假定サンタル人々ガ動産、不動産

ヲ營業主ヨリ預リ、甚シキハ損益迄ヲ預ルト説明シ來ルモノデアアル。或ハ之ハ或一部ニ限ルカモ知レナイガ、現今此種説明方法ニ假定人格説ト云フ様ナ命名ガアルカラ暫ク此名稱ヲ用キテ置ク。

此所謂假定人格説ノ説明方法中ニモ巧拙種々アリテ、中ニハ假定人格説流ト云フニ過ギズ其説明誠ニ徹底セズ、隨分不可思議ナルモノモアル。可也其説明ニ窮シタルカニ見エテ、倉番ヤ出納係ヲ連レテ來ル許リデナク、危ク損益ヲ貸倒レト見ルガ如ク念ノ入ツタノモアリ、就中其極端ナルモノニ至ルト、例ヘバ利息ヲ受拂スル場合ニ、利息ヲ受取ル側ガ現金ヲ受取リ利息ヲ渡シ、亦之ヲ支拂フ側ニナルト、現金ヲ支拂ヒ利息ヲ受入ル、約言スレバ受取利子ハ利息ノ渡シデアツテ、支拂利子ハ利息ノ受入レダト云フ誠ニ珍妙不可思議ノロジツクトナツテ來ル。損益ノ場合ト雖モ之ニ貸主借主ナル兩語ヲ適用スルハ是等ヲ一種ノ人ト假定スルノ外説明ノ途ヲ見出スコト能ハズナゾト云ウテ居ルノハ苦シキ自白デアアル。此他種々難解ノ説明及ビ其批評ハ、中島精二氏ノ論文ニ於テ可也ニ盡シテ居ルカラ茲ニハ之ヲ略スル事トスルガ要スルニ此ノ如キ説明方法ヲ以テ中々子供達ノ頭ニ入ル譯ガナイ。此方法ガ初學者ノ難解デアルト云フ事ノ證明ハ、到底統計ノ數字ヲ以テ

スルガ如クニハ出來ヌケレドモ、大體ニ於テ生徒ヤ學生ノ難澁シテ居ル状態ヲ見テモ明デアル。是ニ疑ヲ挾ム人ハ須ラク學生ノ若干ニ當ツテ質問シテ見ルガ宜イ。中學卒業以上ノ學力アル學生デモ簿記ハ手ガ附カント云ツテ居ル。之ハ就中此借方貸方ノ不可解ヲ言ヒ表ハス文句デアル。法律學校出身ノ人ニ説明シテモ分ラヌト答フ。其レモ其筭貸借ノ意味ニ付キ、簿記ニ於ケルモノト商法ヤ破産法ノ規定ニ於ケルモノト其解釋ニ於テ常ニゴタ付イテ居ツテ、學生卒業生ハ愚カ尙案起草ノ博士連ニモ、是レガ頭ニ入り得ヌ程不思議ナ説明方法デアルカラデア。嘗テ小學生時代簿記ヲ課セラレタ時ニ、簿記ニ於テハ何デモ反對デ、約リ借ハ常ニ貸ダ、貸ハ常ニ借ダ、兎ニ角反對ニ取ルモノダト結論シテ置イテ、而シテ其仕譯ヤ記帳ヲシテ行ケハ常ニ滿點ガ取レタ事ヲ記憶スル。多分答案ガ正解ニ見エタノデアロウ。事ニヨルト現今デモ簿記デ滿點ヲ取ル學生中ノ一部ハ、矢張碌々考ヘモセズニ、手取り早く此貸借反對ノ簡便了解法デ行クノモアリハスマイカ。簿記デ劣等點ヲ得ル學生ホド却ツテ其眞意義ヲ捕ヘヤウトシテ哀レナ境遇ニ悶エテ居ルノデハアルマイカ。少クトモ學生生徒ニハ簿記ノ貸借ガ此假定人格説流ノ説明デハ到底分ラズ仕舞トナツテ、而モ多數ノ練習ヲドシドシ課セラルル内ニ、

先生ノ説明以外ニ自カラ悟ル所アリ、即チ各自一己ノ貸借識別法ト云フモノガ出來上リ、之ニヨツテ仕譯ヲ行ヘバ萬々間違ナシト云フ歸納法的ノ論理ニモ合ヒ、其處デ安心シテ帳面ガ附イテ行クノデハアルマイカ、序デニ今一步想像ヲ逞クスル事ヲ許サル、ナラバ、下ノ如クニ云ヘヤウ、此假定人格說デ説明セラレタ學生ガ自己獨特ノ識別法ニヨリテ及第スル、其卒業生ガ此度ハ簿記ノ先生トナル、所ガ眞逆ニ自己獨特ノ識別法ハ、之ヲ生徒ニ傳ヘルノ勇氣ガナイ、仕方ナシニ其教ヘラレタ通り、假定人格說流ノ説明ヲ其嚮生徒ヘ傳授スル、尤モ先生自身ニハ必ズシモ此人格說ガ分ツテ居ラズ、先生自身ハ秘カニ其獨特ノ識別法デ仕譯ヲシテ行ク、分ツテ居テモ簡便ダカラ其方ニ從フ、此説明ヲ聽ク生徒ニハ復々分ラス、其生徒ガ練習中ニ是亦悟リヲ開ク、自己獨特ノ識別法ヲ工夫スル、之レガ復タ先生トナル、先生トナルト復々假定人格說流デお茶ヲ濁ス、其實仕譯ハ其感得ノ識別法デ處理ス、循環復々循環、假定人格說流ノ説明者及ビ著書ハ鼠算ヲ以テ増加スル、而カモ此説明丈デハ生徒ノ頭ニ入ラヌコト昔日ノ如ク、據無ク生徒ハ練習中ニ獨特識別法ヲ悟ラネバナラス。

以上ノ如キ狀況ハ、或ハ之ヲ以テ予一個ノ獨斷ダトセララルル人ガ有ルカモ知レ

ス。併シ兎ニ角自分ハ而ク信ズル事ヲ禁ジ得ナイ。反對ノ意見ヲ有スル人ハ予ヲ攻撃スル以前ニ先ツ學生ニ當ツテ調ベテ見テ下サイ。

予ハ假定人格說ヲ以テ常識デ分ラヌ説明方法ダトハ云ハナイ。且又予ハ常識デ分ラヌ様ナ説明方法ハ誤リタル説明方法デアルトスル程常識ヲ尊崇スル者デハナイ。眞ニ徹底シタル假定人格說ニ於テハ財産ノ價值ニ目ヲ付ケテ、價值ガ財産ニヨツテ體現セラレテ居ルト云フ處迄行ツテ居ル。此等ハ最モ尊重スベキ學說デアアル。併シナガラ其末輩ニ至リテハ、斯ク徹底シタル説明ヲ與フルコト甚ダ怪シク、約マリ説明ガ半途ニ於テ斷絶シテ居リ、就中斯ノ如キ深遠ナル玄理ヲ子供ノ頭ニモ分カル様ニ、態ト幼稚ナ説明ニ變化セシメ終ラントスルカラ、其處デ利息ノ支拂ハ利息ノ受入レダト云フガ如キ珍妙ナモノニナリ終ル。予ハ之ヲ假定人格說ト云ハズニ假定人格流ノ説明ト云フ。企テ、而モ透徹シナイカラデアアル。

去リナガラ、若シ貸借ノ意味ガソノ學生、生徒ノ常識デ判斷シ兼ネル程度ノ面倒ナ人格說ニヨラズトモ、他ニ誠ニ簡明極マル説明法ガアリトシタラ、敢テ殊更ニ人格說ニヨラズトモ、否却ツテ其場合ニハ、此難解ニシテ而モ説明者ノ如何ニヨリテハ往々曲解ニ陥ルノ虞アル人格說ノ如キハ、寧口擲ツタ方が良クハナイカト惟

フ。

然ラバ果シテ常識カラ見テモ容易ニ判カル様ナ説明方法ガアルカト云ヘバ大ニアル。

二 假定人格說ニ代ルベキ説明方法

予ハ勿論簿記學者ト云フ程ノ研究モ出來ズ、況ンヤ簿記ノ權威デモナク、從ツテ格別深キ事モ知ラズ、又新機軸ヲ出シ得ル程ノ者デナイ。ケレドモ併シ貸借ノ意義ノ説明ハ次ノ如キ順序デ十分ナリト思惟スルモノデアアル。

一、簿記ノ主體ト客體 先ツ第一ニ此説明ヲ下ス。權利ノ主體トナリ得ル者ガ簿記ノ主體デアルトシ、同一人ニシテ諸種ノ事業ヲ營ミ、自然其各事業毎ニ簿記ガアル事ヲ要スルカラ、其場合ニハ此各事業ヲ夫々主體トスル。一度事業ヲ主體トシテ來ルト、其主人ハ事業カラ見テ權利者(資本主)ノ如キ地位ニ表ハスコトヲ得。客體トハ記帳セラル、所ノモノ即チ財産上ノ權利義務及ビ利害關係ナリ、但シ其價值アルモノニ限ルコトハ、本來簿記ガ此等ニヨリテ體現セラル、價值ノ計算デア
ルカラデアアル。

二、財産ノ増減變化　ヲ説クニ當リテハ普通ノ加法減法ノ方法ヨリ説キ來リテ、而モ帳簿上ニ於テハ加法減法一金額欄ニ記入シ、(+)(-)ノ符號ニヨリ區別スルガ如キハ却ツテ不便ナル故ニ、(+)(+)ノ欄ト(-)ノ欄トヲ分ツコトヲ説キ、其勘定科目ガ資産ナルカ負債ナルカニヨリ、 $+(+)$ 、 $+(-)$ 、 $-(-)$ アルコトヲ説クモ中學程度ノ學校ニ於テハ生徒ハ之ヲ解シ得ベシ。而シテ所謂資本金勘定ニ至リテハ正味財産ノ反影ナリトシ次ニ損益勘定ヘ導ク。

三、損益勘定　ノ説明ニ當リ複式簿記ニ在リテハ、貸借金額初メヨリ必ズ平均スルモノナリトナスハ誤解ヲ招キ易シ。寧ロ其當該取引限ニ於テハ貸借平均セザルコソ、損益ト稱セラル、モノ、生ズル所以ナラン。故ニ一應ハ平均セザルモノトナシテ説明ヲ進メ、結局其レ資本金勘定ノ増減トナルベキナレドモ、斯クテハ記帳ノ明確ヲ缺クガ故ニ損益勘定ヲ用キテ其缺ヲ埋ムベク、而モ單ニ損益ト稱スルトキハ其發生原因ガ餘リ漠然タルコト恰モ金錢、商品、不動産ノ諸勘定ヲ區別セズ一纏トシテ資産勘定トナシ得ザルニ非ザルモ、斯クテハ明確ヲ缺クガ故ニ分類セザルヲ得ザルト同ジク、損益勘定モ分類シテ、例ヘバ利子ヨリ生ジタル損益、營業費ヨリ生ジタル損益ト云フガ如クシ、而モ斯ノ如キ名稱ハ不便ナルニヨリ、假リニ略

シテ利子、手數料トスルモノナリト説ク。而モ彼ノ一部ノ人ノ説クガ如ク、受取利子勘定ニ利子ヲ渡スト云フガ如キ苦シキ説明ヲ免レ得ルノデアアル。以上ノ如クシテ貸借ハ平均スルモノナラザレドモ、其平均セザル場合ニハ帳簿整理ノ必要上平均セシムルモノナルコトニ言及ス。

四、貸借對照表 斯クテ貸借對照表ニ入リテ結算當時現在ノ資産ヲ明ニシ、其資産ヲ左ニシ負債ヲ右側ニ記載スル理由ハ、(一)何人モ負債ヨリ資産ヲ好ムガ故ニ資産ヲ第一位ニ置クコト、(二)而シテ我簿記ノ範タル歐米ノ記録法ハ左ヨリ右へ及ボス故ニ、結極第一位タル資産ハ左側へ來ルノ慣習ヲ生ジタリト云フニ止ム。

五、借主、貸主 斯クテ説明ハ借主、貸主ニ進ムベシ。Dr.ヲ借主ト譯シ、Cr.ヲ貸主トシテ教授ス。金錢貸借ノ記帳ニ當リテハ、事業自身ガ貸シタリ、又ハ事業自身ガ借りタリト記帳スルコトヲ得ズ。何トナレバ(一)事業自身ハ簿記ノ主體ニシテ客體ニアラザルコト、(二)假リニ之ヲ許ストシテモ、事業自身ノ貸借丈ニテハ明瞭ヲ缺クガ故ニ、必ズヤ借主、貸主ノ名モ附記セザルベカラズ。併シ一旦其相手方タル借主又ハ貸主ヲ捕ヘテ置キナガラ、扱一轉シテ自身ヲ顧ミ、而シテ我ヲ主格トシテ我が彼ノ貸主又ハ借主ナリト云フ賓辭ヲ用ユルコトノ間接ニシテ且ツ面倒ナルヨリ

ハ、寧ろ直ニ彼ヲ主格トシテ、彼ハ借主又ハ貸主ナリト云フ賓辭ヲ以テ云ヒ表ハスノ直接簡明ナルニ如カズ。且ツ此ノ如クスレバ(一)ノ如ク簿記ハ客體ヲ記錄スルモノナリトノ理義ニ合ス。之ハ貸付金、借入金ト云フガ如キ借主、貸主ヲ一括シタル勘定科目ヲ設定シタル場合ニ於テモ其理義ニ於テ變ズルコトナシ

六、借方、貸方 扨然ラバ貸借對照表ニ於テ借主、貸主ハ何方ニ表ハル、カ。借主ハ左ニ、貸主ハ右ニ表ハルベシトナシ、然ラバ貸借對照表ノ左側ハ借主ヲ書ク方 *Debitors' side* トシ、右側ハ貸主ヲ書ク方 *Creditors' side* タリ。借主ヲ書ク方略シテ借方、貸主ヲ書ク方略シテ貸方、換言スレバ借方、貸方ハ借主、貸主其者ナラズ、*Side* ヲ方トセルモノナリトス。秘カニ惟フ *Dr. Cr.* ノ譯語ヲ借方、貸方トナセルハ何人ノ發意ニヨルカ知ラズト雖モ恐クハ誤譯ナランカ。少クトモ其譯語ガ不用意ニ定メラレタルガ爲メニ、現今貸借語義ノ混亂ヲ來シタノデハナカロウカ。希クハ其詳細ヲ知ルコトヲ得ン。

七、客體ノ擴張 次ニ普通ノ説明ノ如ク、複式簿記ニ於テ客體ノ擴張セラレタル事ニ言及ス。結極如何ナル勘定科目ガ設定セラル、トシテモ、其貸借對照表ニ於ケル位置ハ單ニ左カ右カニ過ギズ、換言スレバ、*Debitors' Side* カ *Creditors' Side* カニ過ギ

ズトナシ、而モ動産、不動産ノ如キガ決シテ借主ニモ貸主ニモアラズ。唯借主ヲ書ク方又ハ貸主ヲ書ク方へ記サル、モノナリト結ブ。

八、仕譯 仕譯ノ説明ニ當リテハ豫メ記録ニ靜的狀態ノ記録ト、動的狀態ニ於ケル記録トアルコトヲ述べ、靜的ノモノトハ即チ殘高ヲ示ス所ノ貸借對照表作成ノ如ク Fisher 氏ノ所謂 Stock ニ當リ、動的ノモノトハ此殘高増減ノ計算ニ必要ナル手段トシテノ記帳即チ Fisher 氏ノ所謂 Flow ニ當ルトナシ、此動的ノ記帳ガ即チ仕譯ナルモノナルコトヲ説キ、茲ニ第二ニ説明セル所ヲ引キ來リ、約リ貸借對照表作成上ノ便宜ノ爲メ總勘定元帳ニ於テモ資産ノ殘高ハ左(借主ヲ書ク方)、又負債ノ殘高ハ右(貸主ヲ書ク方)ニ置カル、モノナルガ故ニ、此動的記帳ノ仕譯ニ於テモ資産ノ増ハ左、減ハ右、負債ノ増ハ右、其減ハ左ヲ至當トスベク、斯クテ簡單ニ且ツ機械的ニ元帳へ轉記シ得ル方便ナリト云フニ終ル。損益勘定ノ仕譯亦同ジ。仕譯ノ貸借モ平均セシムルモノナルコトヲ説クモ亦此部分ナリ。

九、貸借對照表ノ形式 借方資産カ貸方資産カノ論ハ、英國一八六二年會社法迄モ引出サル、論戰ニシテ、大ニ賑カナルモノナレドモ結極ハ可也大人氣ナキモノナラズヤ。宜ナリ蘇國ハ從來餘リ之ニ頓着セズ、歐大陸及米國ノ如キ更ニ之ヲ眼中

ニ置カザルコトヤ。就中我法學者ノ議論ニ至リテ、其多クハ動産、不動産迄ヘモ人格ヲ與ヘテノ貸借ノ意味ニハ之アルマジ。予ヲ以テ云ハシムレバ、假令所謂借方資産トシテノ貸借對照表ヲ發表シタリトテ、世人ハ眞逆子ガ予ノ相手方ノ貸借對照表ヲ作りタリトハ思惟セザルベシ。本來此ノ如キハ右ニアルト左ニアルト、將タ上ニアルト下ニアルト關スル所デナイ。已ニ關スル所ニ非ズトセバ、彼ノ借方資産流ノモノガ所謂資産ヲ第一位ニ置キ、且ツ歐米式ニテ橫書スル場合ニ先ヅ左ヨリ之ヲ書キ初ムト云フ點ニ於テ人情ノ自然ニ合シタルモノナラズヤ。

十、單式、複式ニ至リテハ予ハ先ヅ複式ヲ説明スレバ、單式ノ説明ノ如キ簿記ノ説明ノ終ニ於テ多少ノ説明ヲ附加スルニヨリ足ルトスルモノデアル。複式ニ先立ち單式ヲ説クガ如キハ、結極當然分ツテ來ルベキ事ニ對シ、而モ簿記講義ノ爲メ徒ラニ時間ヲ費スモノデ、害有リトモ益ナキ説明順序ナリ。尤モ恩師下野教授ガ説カル、如キ意義ニ於ケル單式複式ノ區別ハ、實ニ卓見ノ中ニ數フベキモノデ、大ニ意義アルモノダケレドモ、世間多クノ學者ノ解スル單式簿記ハ斯ク迄ニ深遠ナル理由ヲ有シテ居ナイヤウダ。若シ單ニ最初豫メ簡單ナル記帳ノ練習ヲ要ストノ議ナラバ、小使帳ノ練習位デ十分デハアルマイカ。若シ又下野教授ノ説カル、如

キ意味ノ單式ナラバ是レモ複式ノ後ニ説明シテコソ其學說ノ價值ガ眞實ニ味ハル、デアロウ。

三 希 望

要スルニ簿記教授ノ到達點ハ、財産増減變化ノ計算ト殘高表作成ノ技術デアアル。近時會計學ノ進歩セルアリ、從來ノ所謂簿記學中ヨリ其困難ナル理論ヤ問題ヲ、多クハ此會計學中ニ繰入ル、事トナリタルニ於テ、殊ニ此感ヲ深クスルモノガアル。簿記ハ技術ナリヤ科學ナリヤノ問題モ之レガ爲ニ解カレタルガ如キ觀ガアル。而シテ結極貸借ノ問題ハ、右カ左カ加算カ減算カノ中ヲ出デズ、假定人格說ハ其結構ノ極メテ複雑ナル、乃至其推理ノ甚ダ深玄ナル一個ノ學說トシテ最モ珍重スルニ足ル。去リナガラ予ヲシテ敢テ云ハシムレバ、是ニハ甚ダ詩的ノ部分ガアル。簿記ノ如キ實地ノ學問ノ説明方法トシテハ、其色彩甚ダ調和ヲ缺クコトナキカ。簿記ハマタ比喩的デハ困ル。簿記ハお伽噺デハナイ。説明ノ都合上一時假定ハ良シ。併シ假定デ終始シタ限リデハ困ル。終ニハ假定ヨリ眞實ニ復歸シテ、吳レナクテハナラヌ。結極計算上實質ニ於テ同一ナリトノ説明モアルガ、結局計算ノ

目的ノ爲ナラバ初メヨリ其積リノ方ガ誤解ガナクテヨイ。而モ尙是レ女ナラバ
マダ忍ブ事ガ出來ルケレドモ其甚ダ忍ビ得ザル部分ハ、假定人格説ガ徹底セズニ
半途變化シテ所謂假定人格流ニ終ルモノガアル事デアアル。此種ノ説明方法ガ生
徒學生ヲシテ頗ブル難解ナリトノ嘆ヲ發セシメ、一般人士ヲシテ簿記ハ分ラヌモ
ノ、簿記ハ専門ノ學ナル故其用語サヘモ特別ノ字義ヲ附スルコトアルベシトシテ、
恰モ素人ノ關知スベカラザルモノナルガ如キ感アラシメ、或ハ之ハ予一己ノ杞憂
ニ過ギザルカモ知ラザレド、簿記ノ先生〔學者ト云ハズ〕其人ト雖モ、一步ヲ誤レバ自
カラ欺クコトナキカノ懼アラシムル程ノモノガアル。恩師下野教授ハ其著簿記
精理第一編ノ序文ニ於テ「徒ラニ牽強附會シ以テ自カラ得タリトナスヲ戒メ、器械
的ニ之ヲ學ビ若クハ牽強附會ノ理窟ニヨリ、之ヲ會得セントスレバ簿記學程錯雜
面倒ナルモノ無カルベシ」トセラル。吾人後輩ハ恩師ノ此言ヲ以テ箴トナスベキ
モノナルガ、後輩ノ多キ此慈愛ニ富ム言ヲ解セザルモノアランヲ恐ル。要スルニ
人格説ハ一個ノ學説トシテ傳フルノ要アリ。併シ簿記説明ノ進行上ヨリ見タル
位置ハ、學習者ガ簿記一通リノ智識ヲ得タル後ニ於テスベシ。此點ヨリ見テ下野
教授著計算學ハ大ニ當ヲ得タルモノナルベシ。望ムラクハ教授要目改訂ノ任ニ

當ラル、先覺諸子幸ニ予ノ言ヲ容ル、ニ吝ナラズ。彼ノ難解ニシテ而モ必ズシ
モ初メヨリ學習ヲ必要トセザル假定人格說ニ對シ手加減ヲ加ヘラレンコトヲ。